はロクセンスズメダイ、ササムロ、ボラの蝟集がみられた。ボラは数十尾の群れで蝟集した。

・ハマフエフキ人工種苗が音響給餌機に蝟集することから、放流後の初期の入為的管理が音響馴致の手法を用いて可能であることが示唆されたが、さらに蝟集量を増加させるための技術的な課題が残っている。

・簡易型の音響給餌システムを試作したところ、80万円程度の費用で最低限必要なシステムが製作できた。

・1989年の調査海域から名護および国頭漁協へのハマフエフキの水揚げ量は、約9.5トン、推定尾数13,546尾であった。

・1才魚（1988年級群）の推定水揚げ数は、名護漁協で過去5ヶ年間で2番目に少なく、また国頭漁協では過去4ヶ年間で最も少なかった。昨年の潜水観察と曳網採集の調査結果からの予想が的中した。

・1989年の羽地海域のフエフキダイ科浮遊稚仔魚の量は0.89～1.83個体／1,000㎥で、過去最低であった1988年と同水準である。

・1989年の天然ハマフエフキの着底量は、6～7月の潜水観察と曳網採集の結果からみると1988年の水準の三分の一程度と考えられる。一方、9～10月の潜水観察の結果からは1988年の60％程度の水準と考えられる。これらのことから1989年級群の加入水準は、1988年級群の半分程度の水準と予測され、過去最も加入の少なかった1986年級群と同レベルと考えられる。

・海流ハガキの回収率は、4月放流分が5％、5月分が8.8％であった。漂着地は4月が放流点の西方向で多く、5月は放流点の東方向で多かった。

文　　献

金城清昭（1986）　アマモ場とその周辺に着底するフエフキダイ属（*Lethrinus*）魚類の生態－Ⅰ．ハマフエフキ（*Lethrinus nebulosus*）の着底と成長に伴う移動、西海区ブロック浅海開発会議魚類研究会報，（4）：19－28.

沖縄水試（1987）　昭和61年度栽培漁業技術開発調査報告書．ハマフエフキ・タイワンガザミ．沖水試資料（96），pp.100.

沖縄水試（1989）　昭和63年度栽培漁業技術開発調査報告書および栽培漁業技術開発総括報告書（昭和59～63年度）．ハマフエフキ・タイワンガザミ．沖水試資料（109），pp.114.